

THE OFFICIAL RULE BOOK

FOR THE POSITIVE BUDDY LESSON SYSTEM



inthe**dog**

CONTENTS

参加条件	3
トレーニングしながらポイントを貯める	
◆ ポジティブボディポイント	4
◆ ポイントを貯めて景品をゲットしよう!	5
◆ 規定数を合格して次のチャレンジへ!	
◆ 持ち物、道具について	6
ポジティブ・ボディポイントの流れ	
◆ 概要	7
◆ チャレンジA〈基本ルール〉	8
◆ チャレンジB〈基本ルール〉	9
◆ チャレンジC・D〈基本ルール〉	10
◆ ヒールポジションについて	11
無効(失格)についての条件	
◆ 課目による条件	12
◆ マナーについて	
◆ ジャッジによって不正が発覚	
◆ 指示(キュー)の出し方と回数の規定について	13

参加条件

- inthedogでトレーニングを受けている。
- ポジティブボディ専用ノート(¥1,200)を購入している。
- 混合ワクチン接種又は抗体価検査。
狂犬病予防注射が接種済みである。
- 未避妊の♀の場合、ヒート中ではないこと。
- 感染症を患っていないこと。

これらの条件を満たさない場合には受験不可となります。

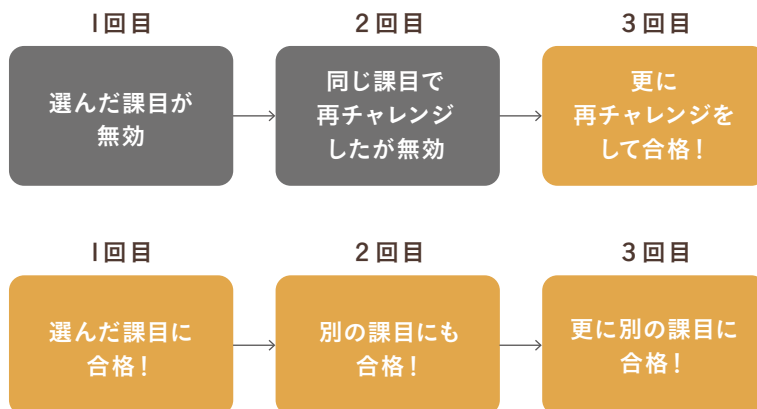
トレーニングしながらポイントを貯める

◆ ポジティブバディポイント ◆

通常のトレーニング時間内に受けることができます。1回のトレーニング中に3回まで挑戦できます。

無効（失格）の場合、同じ課目に再チャレンジ、または別の課目に変えて受けることもできます。

（例）



トレーニングしながらポイントを貯める

◆ ポイントを貯めて景品をゲットしよう! ◆

課目に合格すると課目の難易度に応じたポイントが加算されていきます。

ポイントを貯めていくことによって様々な景品と交換することができます。景品は店頭にてご確認ください。

◆ 規定数を合格して次のチャレンジへ! ◆

チャレンジAで10課目に合格すると新たにチャレンジBの課目に挑戦することができるようになります。

課目は今後も随時増えていきます。得意な課目から攻略していき、新たな課目を増やしていきましょう。

トレーニングしながらポイントを貯める

◆ 持ち物、道具について ◆

カラー、ハーネス及びリード、課目に必要な器材以外は基本的に持ち込み不可となります。

リードの長さは90～120センチのものを使用して下さい。伸縮リードは使用不可。課目によってはロングリードを使用することがあります。

飼い主は鞆やポーチなども身に付けてはいけません。

又、フード類(ドッグフード、オヤツ)、おもちゃ類も持ち込み不可。但し、使用可能な課目もあります。

ポジティブ・ボディポイントの流れ

◆ 概要 ◆

飼い主（以下ハンドラ）は審査員（以下ジャッジ）の指示に従って受験します。

場所は課目によって異なります。室内の場合はinthedog店内、室外の場合はお店から移動しジャッジが指定した場所でおこないます。

ジャッジが始めても良いかをハンドラに確認をし、承諾されたら開始となります。

課目によって開始の仕方は異なりますので、各課目のルールを確認してください。

チャレンジAとチャレンジBでは基本ルールに違いがあります。詳細は次のページをご覧ください。

ポジティブ・バディポイントの流れ

◆ チャレンジA〈基本ルール〉 ◆

- ① 準備ができたらジャッジに告げて下さい。準備完了するまではテストの審査に含まれません。
- ② ジャッジの「はい。どうぞ。」が審査スタートの合図で、ジャッジの「はい。OKです。」の合図が審査終了の合図となります。
- ③ 「フードあり」はポケットまたはトリーツポーチを使用すること。おやつは行動の結果のご褒美として使用するもので、手に持ち続けるといった使い方は過剰誘導とみなし無効となります。
- ④ 「フードあり」ではクリッカーの使用も認める。
- ⑤ テストの項目によって使用するおもちゃ、クレートなどの道具はハンドラが基本的に用意して下さい。

ポジティブ・バディポイントの流れ

◆ チャレンジB〈基本ルール〉 ◆

- ① チャレンジBは基本的にヒールポジションから始めます。ハンドラが準備を終え犬をヒールポジションにさせたらジャッジに告げて下さい。
- ② ジャッジの「はい。どうぞ。」が審査スタートの合図で、ジャッジの「はい。OKです。」の合図が審査終了の合図となります。
- ③ 「フードあり」はポケットまたはトリーツポーチを使用すること。おやつは行動の結果のご褒美として使用するもので、手に持ち続けるといった使い方は過剰誘導とみなし無効となります。クリッカーの使用は不可。
- ④ ロングリードを使用する課目は審査中ロングリードを持たないようにして下さい。
- ⑤ テストで使用するおもちゃ、クレートなどの道具はハンドラが各自用意して下さい。

ポジティブ・ボディポイントの流れ

◆ チャレンジC・D 〈基本ルール〉 ◆

- ① チャレンジAとチャレンジBの合計が15課目以上合格していれば受験可能です。
- ② 準備ができたらジャッジに告げて下さい。準備完了するまではテストの審査に含まれません。
- ③ ジャッジの「はい。どうぞ。」が審査スタートの合図で、ジャッジの「はい。OKです。」の合図が審査終了の合図となります。
- ④ 開始する位置はヒールポジションから始めるという記載がなければ任意の場所からスタートできます。
- ⑤ 「フードなし」の場合でもトリーツポーチは装着したままでチャレンジすることが可能です。
- ⑥ 場所が自由と記載されている場合、ハンドラが任意の場所（室内、駐車場、公園など）でチャレンジすることができます。
- ⑦ 項目に使用する道具は基本的にハンドラが用意して下さい。但し、項目によって店頭でお貸しできるものもありますのでお訪ね下さい。

ポジティブ・ボディポイントの流れ

◆ ヒールポジションについて ◆

ハンドラの左、もしくは右足の脇に付ける位置のことをヒールポジションと言います。

ハンドラのつま先よりも犬のお尻が前になった場合、かかとよりも犬の前肢が後ろになった場合、横幅が犬の肩幅よりも空いた位置であった場合はヒールポジションには認められません。

無効（失格）についての条件

◆ 課目による条件 ◆

- 課目に設定された合格基準を満たさなかった場合。
- 課目に設定された無効に該当するおこないがあった場合。
- 規定回数以上にキューを使った場合。

◆ マナーについて ◆

- テスト中の過剰な吠え。（飼い主が即座に静止できる場合は問題ない）
- ジャッジ、傍観者、ハンドラへの攻撃性が出た場合。
- テスト中の排泄。
- ハンドラが犬に人道的でない方法をした場合やその他の参加者、傍観者に不快な思いをさせた場合。

◆ 課目による条件 ◆

- 課目によって使用不可のフードやおもちゃ、犬具等を隠し持っていたのが発覚した。
- 傍観者がテスト中に助言をしたり、犬の誘導がおこなわれた。

無効(失格)についての条件

◆ 指示(キュー)の出し方と回数の規定について ◆

犬へのキューは1つの行動につき原則3回までとします。(課目によって変わる場合もあり、その場合は別途記載)声によるキュー、手や体を使ってのキュー、いずれも1回に数えられます。ただし声や手を同時に使ってキューを出した場合は合わせて1回と数えます。計3回の回数を超えてキューを使った場合は無効となります。

リードを使ってのコントロールや、犬の体を直接触って動かしたり、オーバーリアクション、キューを出しっぱなしにする、といった行為は過剰誘導となり注意もしくは無効となります。例えばフセを手のキューを使ってさせる場合、手が犬の鼻よりも下まで動かしていた場合は過剰誘導と判断されるのでご注意ください。

キューによって犬が行動をした後に褒める掛け声や、審査の前後の時間に犬に声をかけたり、触ったりするのは問題ありません。但し、過剰な接触や誘導に繋がるものとジャッジが判断した場合には注意される場合があります。